

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び…思考力・判断力・表現力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現…進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校…違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼…行きたい学校、行かせたい学校として地域から信頼される学校

2 中期的目標

- 1 自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成
 - (1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。
 - ア 自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。
 - イ ICT 機器・視聴覚機器の活用を推進し魅力ある授業をつくる。
 - ウ 多様な「学校設定科目」の開設などにより総合学科の強みを生かした教育課程の編成を行う。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）「興味関心を持って取組むことができる授業が多い」（R4：66％、R5：72％、R6：82％）を令和9年度80％以上にする。
 - (2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組みを実施する。
 - ア 探究的、体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
 - イ 補習や講習、進路ガイダンス等の充実により、満足する進路が実現できることをめざす。
 - ウ 家庭学習（授業外学習）に取組む力の育成を図る。
 - エ 英検、漢検などの資格取得を積極的に推進する。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）「自分が決めた進路に満足」（R4：92％、R5：92％、R6：93％）を令和9年度には95％以上にする。
 - ※ 国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上
 - 関関同立の現役合格者（R4：30名、R5：42名、R6：38名）を名以上、産近甲龍および四女子大（京都女子、同志社女子、武庫川女子、神戸女学院）合格者（R4：126名、R5：99名、R6：134名）を令和9年度は名以上を維持する。
- 2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動、社会に開かれた教育課程の実践
 - (1) 学校行事や部活動をととして主体性、協同性、コミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。
 - ア 共生推進教室の生徒をはじめ、多様な生徒たちが同じ環境で生活し、互いを理解し、互いに高めあう、インクルーシブな教育を推進する。
 - イ 学校行事や部活動を生徒主体で運営することにより、自ら課題を発見し協働しながら解決していく力を育む。
 - (2) ボランティア活動・地域交流への取組みを促し自己肯定感を育む。
 - (3) 大学・専門学校・小中学校・こども園などとの異校種間の連携を進め、学びを深める。
 - (4) SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。
- 3 安全で安心な学校づくり
 - (1) 全教職員が連携して生徒指導を行い、授業規律の確立、挨拶の励行、規範意識の醸成等、落ち着いた学校づくりを進める。
 - (2) 校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。
 - (3) 教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取組み、中学校との連携を深め、生徒情報を入学前から早期に収集し、安心して学校生活が送れる環境を整える。
 - (4) 人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切にする学校づくりを進める。
- 4 学校の組織力向上及び学校の魅力の発信
 - (1) 学校の教育目標を共有し、チームとして学校の教育活動に取組む組織作りを行う。
 - ア PDCA サイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
 - イ 研修の成果を共有し、教育課題及びGood Practice（学校改革に向けた他校の素晴らしい取組み）への理解を深める。
 - ウ 教職員の働き方改革に取組み、教職員一人ひとりの意識改革を推進しながら、時間外在校等時間数の削減に努める。
 - (2) 学校の魅力の発信
 - ア 学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取組む。
 - イ 学校 Web ページ、ブログ、学校公式 SNS、広報資料等を活用して、学校の活動及び魅力が鮮明に伝わるように創意工夫、情報更新を行う。
 - ※ 学校説明会での中学生満足度（R4：92％、R5：91％、R6：91％）を令和9年度も90％以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 自らの進路を切り開くことのできる 確かな学力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業 ア 組織的な授業改善	(1) ア・生徒 1 人 1 台端末を活用した授業研究並びに評価方法の検討を行う。 ・総合学科の特色である少人数授業を通し、主体的・対話的で深い学び、思考力や課題解決能力の育成に向けた授業改善を行う。	(1) ア・学校教育自己診断（教職員）「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善を行っている」80%以上を維持[87%] ・学校教育自己診断（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」80%以上[75%]	
	イ 組織的な授業改革	イ・ICT 機器を活用した視覚的なアプローチを通したわかりやすい授業作りをテーマに研修を行う。	イ・学校教育自己診断（教職員）「情報機器を教科の授業で活用している。」80%以上[85%]	
	(2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組み ア 青雲道場の実施、生活習慣および学習習慣の定着	(2) ア・青雲道場（補習や講習、勉強合宿、大勉強会、自習室など）を実施する。	(2) ア・学校教育自己診断（生徒）「自習室・HR 教室で自習する」60%以上[58%]	
	イ 部活動との両立	イ・文武両道の学校創りに向け、部活動を通じて部活動と学習の両立を常に意識させる。	イ・学校教育自己診断（生徒）「勉強と部活動の両立」70%以上[72%] ・学校教育自己診断（生徒）「家庭学習（授業外学習）1 時間以上」50%以上[50%]	
2 学びを深める教育活動、社会に開かれた教育課程の実践 学びを深める教育活動、自己肯定感や探究心を育み、社会に開かれた教育課程の実践	(1) 人間関係力の育成を図る ア 部活動	(1) ア・部活動説明会や仮入部などにより部活動加入率をあげ、人間関係を築く力を育てる。	(1) ア・部活動加入率：80%以上[79%]	
	イ 学校行事	イ・学校行事において、主体性の育成に重点におきながら、生徒の満足度を高める。	イ・学校教育自己診断（生徒）「行事が楽しい」90%以上を維持[91%]	
	ウ コミュニケーション力の育成	ウ・授業等を通じて、自らの考えをまとめたり、わかりやすく伝えたりする力を育成する。	ウ・学校教育自己診断（生徒）「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」85%以上維持[91%]	
	(2) 自己肯定感の育み ア ボランティア活動・地域交流・高大連携	(2) ア・部活動および個人参加も含めたボランティア活動への参加や地元小中学校や大学との連携事業、さらに地域行事等における交流を積極的に推進する。	(2) ア・ボランティア活動参加生徒 100 名以上を維持[168 名] ・部活動を通じた中学校や地域等との交流 50 回以上[60 回] ・大学、専門学校等からの出前授業とともに、小中学校、こども園などへの出前授業を 15 団体以上維持 [16 団体]	
	(3) 国際交流の推進 ア SDGs の視点を踏まえた国際交流	(3) ア・国際交流企画として外国人留学生との交流や Web 会議システムを用いた海外の学生との交流を通して国際理解教育を推進する。	(3) ア・対面あるいは Web 会議システムを用いた交流等を 3 回以上実施する [3 回]	
3 安全で安心な学校づくり	(1) 生徒指導、遅刻指導、仲間づくり、過ごしやすい学習環境 ア 生徒指導・遅刻指導・挨拶の励行	(1) ア・学年団と生徒指導部が中心となり、朝の当番や担任による個別指導などを通して学校全体で遅刻数の減少を図る。 ・挨拶習慣醸成のため、教員から生徒への挨拶を励行する。	(1) ア・遅刻者数を 10%減[1%] ・学校教育自己診断（生徒）「先生の指導に納得」60%以上[63%]	

府立千里青雲高等学校

	イ 生徒間の信頼関係 ウ 学習環境の整備 (2)教育相談体制の充実 ア 学校全体での取り組み (3)人権教育の充実 ア 人権研修	・教員間で生徒対応への意識を共有し、生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導を構築する。 イ・1年次生で仲間づくり研修を実施して生徒間の信頼関係の構築を図る。 ウ・校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。 (2) ア・ケース会議を開催し、職員会議の機会を利用して生徒情報の共有化を図り、学校全体で取組む。 ・中学校との連携を深め、生徒情報を早期に収集し、生徒指導の充実を図る。 (3) ア・教職員向け人権研修の内容及び方法を検討し、教職員の人権意識を高める。 イ・保護者と人権課題を共有するための取組みをおこなう。	イ・学校教育自己診断（生徒）「信頼できる友だちがいる。」90%以上を維持[91%] ・学校教育自己診断（生徒）「クラスに話しやすい雰囲気がある。」90%以上を維持[96%] ウ・学校教育自己診断（生徒）「自分は学校で清掃をきちんと行っている。」90%以上を維持[95%] (2) ア・学校教育自己診断（教職員）「生徒情報の共有化を図りチームで対応」85%以上を維持[81%] ・入学前に生徒情報を組織的に収集し、入学後の生徒指導に活用した。 (3) ア・学校教育自己診断（教職員）「人権課題に対して教職員で話し合っている。」70%以上[63%] イ・保護者・生徒・教員合同の人権研修を実施した。	
4 学校の魅力の発信	(1)チームとして学校の教育活動に取り組む組織作り ア・研修成果や教育課題の共有 ・教員集団のチームワーク向上 イ・働き方改革 ・会議の効率化 ・部活動顧問の負担軽減 ・全校一斉定時退庁の推進 (2)学校の魅力の発信 ア 学校説明会 イ 学校Webページ・ブログ・広報資料	(1) ア・研修の成果や教育課題、Good Practiceを共有する機会やミーティングを設け、チームとして教育活動に取り組む組織をめざす。 イ・「会議の開始時間を遵守する」を組織の統一指針とし、効率的な進行に向けた工夫を推進する。 ・様々な取組みを通して、全教員の超過勤務時間を減少させる。 (2) ア・教職員及び生徒がともに、学校の魅力づくりを意識して行動する。学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。 イ・学校 Web ページ、ブログ、SNS、広報資料を投稿、更新して、学校の活動及び魅力を伝える。	(1) ア・学校教育自己診断（教職員）「研修報告の成果の共有」80%以上[80%] ・学校教育自己診断（教職員）「教育活動について、日常的に話し合っている。」85%以上[83%] イ・学校教育自己診断（教職員）「各種会議が効率的に行なわれるよう工夫されている。」70%以上[69%] ・部活動顧問業務量の平準化推進や一斉定時退庁を徹底し、時間外勤務の全教員の平均 40h 未満 [37.24h] (2) ア・学校説明会に参加した中学生対象に実施するアンケートの満足度 90%以上を維持[91%] イ・ブログ（図書、学年、部活動、青雲道場、校長）の更新や学校公式 SNS の投稿を 600 回以上維持[753 回]	